



# 玉工通信

〒 311-3501茨城県行方市芹沢1552  
TEL 0299-55-0138 FAX 0299-55-3454  
<http://www.tamatsukuri-th.ibk.ed.jp>



## たまこう行事予定

12月24(火)~1月7(火) 冬季休業	1月21(火) 学年末考査(3年) 日程発表
1月 8(水) 開講式、午後授業	1月23(木) 電気科・情報技術科の 課題研究発表会
1月16(木) 機械科の課題研究発表会	1月24(金) 課題研究全体発表会(6h)
1月20(月)~マナーアップ週間	1月28(火)~31(金) 学年末考査
	1月31(金) 3年生による合格体験発表会
	2月 3(月) 学年末考査(2年) 日程発表

## 12月23日は閉講式

## 表彰状授与

社会を明るくする運動高校生標語

佳作 3C 佐伯 叶夢(さえき かなむ)

- ・令和6年度茨城県高等学校ウエイトリフティング競技個人選手権大会  
少年男子81kg級  
第2位 1A 加藤 海心(かとう かいしん)
- ・令和6年度茨城県高等学校ウエイトリフティング競技個人選手権大会  
少年男子89kg級  
第3位 1B 薬丸 陽斗(やくまる はると)
- ・令和6年度茨城県ウエイトリフティング競技新人大会  
少年男子81kg級  
第3位 1A 加藤 海心(かとう かいしん)
- ・令和6年度茨城県ウエイトリフティング競技新人大会  
少年男子55kg級  
第3位 2B 羽生 柊也(はにゅう とうや)
- ・令和6年度茨城県高等学校総合文化祭美術展覧会 書道の部  
入選 1A 池野 杏奈(いけの あんな)
- ・令和6年度 第24回 高校生ものづくりコンテスト全国大会 電気工事部門  
優勝 3B 長峯 璃久(ながみね りく)
- ・第35回情報部会生徒競技会  
「高校生ものづくりコンテスト電子回路組立部門新人競技大会」  
第3位 2C 小倉 祐紀(おぐら ゆうき)
- ・第11回 茨城県高等学校5地区合同水泳競技大会男子100m平泳ぎ 県東地区  
第1位 1B 真田 蓮生(さなだ れお)



# 校長講話(12月23日 閉講式)



生徒のみなさんおはようございます。

今年もあとわずかとなりましたが、世界を見渡すと、ウクライナやロシア、イスラエル、パレスチナとあらゆるところで戦争や紛争が起きています。このような話を聞くと誠に残念に思いますが、本日はみなさんがよく知っているアンパンマンの話をしなが、平和や正義について話をしたいと思います。

まずはアンパンマンの生みの親であるやなせたかしさんについて紹介します。やなせさんは、大正8年に高知県で生まれ、早くに父が亡くなり、5歳から弟と二人、おじさんの家で育てられたそうです。弟は勉強もスポーツもでき優秀でしたが、やなせさんは、勉強もあまりできず不器用だったそうです。大学を卒業して就職をしましたが、第2次世界大戦が始まって徴兵されました。配属されたのは九州小倉の西部73部隊という大砲を打つ部隊です。この部隊は勇猛果敢で知られる部隊で炭鉱夫や荷役をしていた人、ヤクザなどがゴロゴロという荒くれ者が集まっていた。そのような部隊でしたので、いつでも殴られ蹴られ、ときには顔がアンパンのように腫れ上がり、ひどい目にあいながらの訓練が延々と続いたそうです。戦争が激しくなってきた、やなせさんの部隊は中国に出兵を命じられました。中国へ上陸するときにはもう二度と日本へは帰れないと覚悟を決めていたそうです。アメリカ軍と戦う予定で上海に駐留していましたが、決戦を前にして、食料を節約しなければなりません。そのため何日も何日も食料はうすいおかゆだけでしのがなければならなかったそうです。あまりにお腹が空いて、そのへんに生えている、たんぼぼなどの雑草も食べて過ごしたということです。その時、やなせさんが骨身にしみて感じたことは「食べ物がないことはなによりも一番辛く、情けない。重労働やストレス、疲労は寝たら回復する。何とか耐えることができる。だけど、空腹だけは生物として耐えることができないと痛感したそうです。このあと、幸いにして大きな怪我などをする事もなく終戦を迎え、アメリカ軍の船で日本に戻ることになり、アメリカ兵を始めて見たそうです。そして「なんだか自分たちより遥かに美しく、凛々しくて服装もかっこよくてスマートだ。それに比べ自分たちは真っ黒けに汚れて、ポロボロだ」その対比がすごくみっともないと思ったそうです。そして、船は日本に到着しました。実家の高知に帰る途中に何も無いほどに全てが破壊された広島の様子を見て、とても大きなショックをうけたそうです。そして家に到着すると、弟が死んだことを聞かされたそうです。弟は終戦直前にフィリピン沖で撃沈されていました。渡された骨壺にはひとかけらの骨もなく、名前だけが書かれた木札だけが入っていたそうです。「優秀でみんなから愛されていた弟が理不尽に死んでしまい、コンプレックスの塊のような、できそこないの兄が生き残った」とやなせさんは思ったそうです。

自分は「何をして生まれて、何をして生きるのか」と思ったそうです。

やなせたかしさんが、戦争を通じて、どのような価値観が形成されたかということをもとめてみます。

まずは飢えが本当に辛いと思った。「とにかく肉体的な苦痛はいつか慣れる。でもひもじさだけはどうしようもない。何よりも耐え難い」というのがまず一つです。

もう一つは、正義というものはあやふやなものであるということ。昨日までは正しいと思っていたことが、明日には悪に変わることもあるということです。どういうことかという、天皇は神様で、天皇のために忠義を尽くし日本を愛しなさいと教えられた。そして「日本は中国の民衆を助ける正義のために戦うというふうに思わされて戦争に行った。これは聖戦だというふうに教えられてきた。しかし、戦争が終わり中国の方から見れば、日本は侵略してくる悪魔ととらえられていた。戦争が終わる前までは天皇が神様だと言っていたのに、戦争が終わると急に皆平等だとか民主主義だとか言われるようになった。どういうことなのだろう。あの戦争は何だったのだろう。正義のための戦いなんてどこにもありはしないじゃないか。だから正義は簡単に逆転するものなのだ。どちらの側に立つかによって、正義と悪が容易に逆転する。戦争をしている国はお互いのことを正義だと主張して、相手は悪だと主張している。正義と正義が対立している。どっちが正しいのか、どっちも正しくないのか。ということになってしまう。相手をやっつければ正義が実現され、それでみんな幸せになるだろうか。それで全てが解決するのだろうか。そんな簡単な話ではない。」と思ったそうです。

この体験を通じてやなせさんは、「この社会で一番憎悪するべきものは戦争である。絶対にしてはいけない。戦争は一種の狂気であり、人をおかしくする。どんなに優しい人でも戦場で敵に銃を向けられたら身を守るために撃たなければならなくなる。人殺しや残虐行為など普通のときには考えられないようなこともやらなければならない。一度戦争をしたら誰でも戦争が嫌いになるはずである。本当の戦争を知らないから戦いごっこや戦争映画などを見てカッコいいと思うかもしれないが、実際に戦争を体験した自分からしたら全然カッコよくなかない。」

これが、戦争を体験して、やなせさんが思ったことです。

続いて戦争から戻って来てからの話です。やなせさんは戦争から戻ってきて、ずっと漫画家を目指していましたが、なかなか芽は出ませんでした。アンパンマンがヒットしたのは60歳を過ぎてからのことです。

戦後の日本の様々なヒーローについては、次のような疑念を持っていたそうです。戦後、テレビに「スーパーマンやバットマン、スパイダーマン、ウルトラマンなどたくさん正義の味方が出てきたけど、“嘘くさいな”と思ったそうです。飢えとか戦争を実際に体験してきたやなせさんは、「このヒーロー達は飢えた人を助けに行くことを全然やらないよな。やる事といえば悪い奴を倒して怪獣をやっつけて、町とか森とかを破壊して、ビームとかをぶっ飛ばして正義が勝ったといっているよね。そういうヒーローって派手派手しい服を着て空を飛んで戦っているけど、どうなんだ。どんなに戦っても正義のヒーローは着ているものが破れたり汚れたりすることがないんだよね。自分たちが戦争から引き上げたときはもう服はボロボロで真っ黒でアメリカの兵隊を見てとても惨めな気持ちになっているのに、このヒーロー達って全然服も破けたりしないって、リアリティないな。」自分のことだけアピールするコマーシャルに見えたということです。「そういうヒーローの正義をやなせさんは、“うさん臭い”。自分が正義だと威張っているやつは“嘘くさい”。どこかの国で戦争が起きると国同士、自分たちが正義だという。そして、悪いやつをやっけると、正義が勝ったって言って戦っている。しかし、戦争をしている間に子供たちが死んだり、餓死したりしている。そういう残酷なリアリティに、果たしてヒーローたちは答えられているのだろうか。」戦争中にご飯を食べることができなかった自分たちを、そういうヒーローが助けてくれるとは思えなかったと言っています。そうした考えからやなせさんは本当の正義を行うヒーローを書きたいと思っていたわけです。本物の正義のヒーローとは何なのかと考えたわけです。「正義は不安定なものだから、ある日突然逆転することもある。だから、単純な善と悪の対決だけ変えても別に意味がない。そして、逆転しない正義とは何なのか。」と考え、行き着いた正義が食べ物であったということです。目の前で餓死しそうな人がいるとすれば、その人にひとかけらのパンを与えること、与える愛と献身は逆転しない正義だと思ったわけです。

もし、正義の味方がいるとすれば、最初にやらなくてはならないのは、飢える人を助けることなのだと思います。自分がヒーローを作るなら悪い人をやっつけるヒーローではなくて、ひもじい人を助けるヒーローを作ろうと思ったわけです。自分の身を犠牲にしても食べさせてくれる人がいたら人間にとってどれだけありがたいことか。と考えました。

これがアンパンマンの原点です。

そして、「こういう正義を行うヒーローは決してかっこよくない。ごく普通の人間である。絶対に負けないとか、傷つかない天下無敵のスーパーマンと違って弱い存在でもある。同じ人だから人を救えば自分も割を食ったり、戦えば傷つきもするし、理解されないこともある。必ずしも、褒められないし、感謝されないこともある。」と言っています。

この辺は現実の社会のことを語っていると思います。

人を助けたからと言って必ずしも感謝されるとは限らない。この現実をヒーロー像に反映させるべきだと思ったそうです。「このような現実があっても自分の正義を行おうとするのが本当のヒーローで、自分が傷ついてもいいから人を助けること。そして、まずは自分から行動すること。すごい正義というものは誰でもできるシンプルなことだけど、決して軽いものではない。だから、本物の正義を行う人は格好悪い人である必要がある。」という考えのもとに誕生したのが世界最弱で格好良くないアンパンマンです。「全く颯爽としていないし、転んだり、汚れたりして濡れるとパワーが落ちる弱点がある。食べられない状態になると力が出ない。つまり、食べられる状態、イコール人を助けられる状態にあって初めてアンパンマンは元気が出る。人を助けることを宿命付けられたヒーローということである。人を助けたいと思ったら自分の顔を食べさせてでも力になろうとする。そうすることによってエネルギーを失って失速する弱さを抱えている。弱さがあるからこそ、人はその弱さに共感するし、心を打たれる。人間だってみんな弱さを抱えている。」このように、現実をベースにヒーローを作ったわけです。アンパンマンマーチのフレーズに「愛と勇気だけが友達さ」という言葉がありますが、これは覚悟のことを言っています。人を助けるときに自分が傷ついてもいいという思いが大事で、誰かを巻き込まないと人を助けられないというのではヒーローとしてレベルが低いと言っています。人を助けるときはまず自分ひとりでもやる覚悟を持つ。だから、その時点で一人なのだから自分を動かしてくれるのは「愛と勇気」だけなのだということです。アンパンマンは困っている人のために愛と勇気をふるってただ手を差し伸べる。これが、皆さんの知っているアンパンマンに込められたやなせさんの思いです。

では最後に、1500話以上あるアンパンマンの第一話を紹介して終わりにしたいと思います。生まれたばかりのちびアンパンマンを助けるためにジャムおじさんが足をすべらせて崖から落ちてしまいます。そして、逆にちびアンパンマンに助けられます。ちびアンパンマンはこのことでジャムおじさんとパタコさんからとても褒められます。ジャムおじさんからは「お前には力がある。勇気も優しい心もある、ありがとう。」と言われます。そしてこのときにちびアンパンマンは次のように思いました。「僕、心の中でとてもホカホカしているよ。人を助けるって、こんなに胸が暖かくなるんだ」と説明しています。

以上になりますが、日本のスーパーヒーローアンパンマンに込められた思いが、平和や正義について考えるきっかけにつながれば良いと思います。

# 生徒指導部長講話(12月23日閉講式) 冬季休業前



年末年始を前に時間をいただき、ありがたい。3つのことについて話すので、聞いてほしい。

## ○闇バイトを疑って誘いを断ること

闇バイトは安全ではなく、犯罪である。闇バイトと書いて求人を出すことはない。闇バイトは名前や住所などの個人情報を登録させることや、時間でやり取りしたメッセージが消去されるような特定のアプリを使用するなどの特徴がある。個人情報を知られていることで不安になり、誰にも相談できずに犯罪を繰り返す可能性がある。親しい先輩の誘いだから大丈夫、何かあったら誰かが責任を取ってくれるということはない。初期の段階で疑い、絶対に断ってほしい。

## ○事件事故に注意すること

県内では闇バイト関連に加え、バイクでの暴走行為(いわゆる共同危険行為)で高校生が逮捕される事案が発生している。逮捕された高校生にも学校や家族、友人などの繋がりがあり、この年末年始を有意義に過ごすはずだったかと思う。また、進路を決め、次の春には社会人や大学生として生活する予定だったかもしれない。今この場で伝えたいのは、行為だけを見るのではなく、その先の将来を考えてほしい。親は子に多くを望んではいない。被害・加害によらず、事件事故にあわないようにしてほしい。まもなく社会に出るところで親を悲しませないように、命や人生を大切にしてほしい。3年生は車の免許を取得しているところかと思うので、事故にあわないように安全運転を心掛けてほしい。また、喫煙について、安易に手を出している様子が見受けられる。法律に従って喫煙をしてよい年齢ではない。学校でも重く受け止めて指導していくので、安易に考えないでほしい。

## ○人の話には素直に聞くこと

人は私も含めて本当に未熟である。できないことは多く、身につけるべきことは多い。完璧な人間はいない。時に間違ったことを言ったり、間違った行動をしたりする。それを指摘されたときは許されるかどうかは別として「ごめんなさい」と言うべきだし、素直に耳を傾けるべきだと思う。今年度は繰り返し注意を促したことで昨年多かったSNSに関連する問題が減少した。これは皆さんが素直に耳を傾けた結果だと思う。私自身が心掛けていることに、自分の顔(表情)は自分ではなく、相手が見るものだということがある。ふてくされたり、暗くなったりしないように気を付けている。指摘されたら素直に。休業中は家族との会話の機会も増えることと思うので、その話にもよく耳を傾け、素直に聞いてよく考えてほしい。

# 校長講話(令和7年1月8日 開講式)

みなさん、明けましておめでとうございます。12月の閉講式ではアンパンマンの話をしなが、平和や正義について話をしました。そして本日、このように、みなさんとともに新年を迎えることができ、大変うれしく思います。

本年は巳年ですが、へびと言うと、しばしば嫌われ者扱いをされがちです。しかし、その一方で、脱皮を繰り返して成長することや、その生命力の強さから、「再生」「復活」「長寿」を象徴し、縁起がいい生き物とも言われています。みなさんは、へびに対してどのようなイメージを持っているのでしょうか。

さて話は変わりますが、新しい年を迎え、皆さんは今年の目標を立てたでしょうか？もし、まだの人がいたら、ぜひ今年の目標を立ててもらいたいと思います。一言で、目標を立てると言っても、簡単なことではありません。目標を立てるためには、自分が取り組みたい夢や、現在、課題とと思っていることを考えることになり、現在の状況を十分に把握し、それを分析することになります。その上で、その目標を立てるわけです。さらには、その目標を実現するために、まず何をいつまでに、どのようにやらないとならないか、といった計画も立てなければなりません。このような目標設定をできるようになることは社会で生きていく上で大変重要な力になります。例え、設定した目標が達成できなかったとしても、このような、現状分析や目標設定、計画の実施は年齢がいくつになろうと、どのような内容のものであろうと、これからの社会を生きていくうえで大変に重要な力となることは間違いありません。新たな年の始まりに、ぜひ今年の目標を設定してもらいたいと思います。

ちなみに私の今年の仕事の目標としては

「生徒の皆さんが将来幸せになる学校教育の推進」ということで、学校として取り組んでいきたいと考えています。そのためには皆さんに「工業への興味関心をさらに高めてもらう」ことや「地域で活躍できる人材としてより一層コミュニケーション力を高めてもらう」といったことを具体的に進めていきたいと考えております。皆さんの将来の幸せにつながるものだと思いますので、皆さんの努力にも期待しております。

さて、今回2025年の巳年は「鬼が出るか蛇(じゃ)が出るか」、いったいどんな試練が、または喜びが私たちを待ち受けているのでしょうか。どんな困難に直面しても「蛇に見込まれた蛙」のように萎縮してしまうのではなく、チャンスがあれば「長蛇(ちょうだ)を逸する」つまり、大物を惜しくもとりながすことのないように心がけ、目標を定めたならば「竜頭蛇尾」とならぬよう努力し、健康に留意しつつ、充実した1年にしていきたいものです。

2025年のみなさんのますますの活躍を期待しています。意欲を持って本校での学校生活に取り組んでください。

以上、開講式のあいさつといたします。